
私の日常

あや

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の日常

【Nコード】

N7823Y

【作者名】

あや

【あらすじ】

中学校に入学した女子4人の生活を書いた物語。どんどん中学校生活にも慣れていき、新たな生活が始まる。

中学校生活

『これで、入学式を終わります。』新1年生が、吹奏楽部の演奏に合わせて退場していく。みんなは、自分のクラスに戻っていった。今日から私達は、中学生になった。小学校のころからも人数が多かったけど、中学校は5つの小学校が合わさっているから更に人数が多くなった。

幼稚園から仲が良かった親友とは、うまい具合にクラスが分かれた。1組に、れいなとあい。3組に、ゆうらとあゆ。この4人は、昔からの付き合い。れいなとゆうらは、双子の姉妹。家の敷地には、家とお城がある。そのお城の王様はれいなとゆうらの父、お姫様は母、としてお城を築き上げている。つまり、れいなとゆうらは社長令嬢だ。

4人は、付属小学校出身。5つの小学校の中で2番目に頭がいい学校だ。入学するときに、お受験して合格しないと入れない。4人は、家がみんな近かったから一緒に通いたいとゆうことでお受験したら、見事に合格した。

『ねえーゆらー！』突然、あゆがゆうらに話しかけてきた。

『さつき、れなとあいの教室行ったら…ゆらに会いたいわって言うてる男子おったよ！』ゆうらは、男子とか興味がないほうで特になにも考えずに会いに行ってみることにした。

『あいー！』ゆうらは、あいに会うほうが優先だった。『きーたーぞー！』すると、あいもあゆと同じことを言った。『ゆら、あの

眼鏡の男子どう思う？』いきなりの質問に、ゆうらは『ええ…：んまあ…いい人そうやけど…。なんで？』するとあいが、『なんか、あたしらのこと小学校のころから知つとるらしくて。ずつと探したらしい。』ゆうらが、『ええ…：なんか…：気をつけたほうがよくない？！探しとつたとか…。危ないカンジする。』そこに、れいなが入ってきた。『あつ、ゆらや！あの男子の話聞いた？』ゆうらは『ああ…まあ…：ちよつと危なそうに見える人やろ？』するとれいなが『それがね！！ぜんぜん危なくないん！！さつき話してみたら、すごいいい人やつたん！なんか…：共通点あるとか。』あいとゆうらが、『はあ！？！？意味分からんし！最近知り合つたばかりなのに、共通点なんかあるわけないやんか！！』れいなが、『それがね…：あるんよ。今、あゆおらんから言つけど…：うちら3人さ、1回大人に襲われたやんか？そのときに飲まされた液体みたいなやつ、あの男子も飲まされたつて。』あいが『えつっ！？まぢで！？あの男子の症状は、うちらと一緒になん？』れいなが『うちらは、貧血とかだけやけど…：あの男子はしばらく入院しとらんなんかつたぐらいに、やばかつたみたいよ。頭殴られて、意識もすぐ戻らんだみたいで。』ゆうらが『まぢかよ…：結構身近におるもんなんやね…：つてことは、あの男子も薬飲んどるん？』れいなが『そうそう。同じやつやわ。』ゆうらが、『そうかあ…。』と言って、チラッとその男子を見たときに目が合ってしまった。その男子は、仲がいいもう1人の男子と一緒に3人のほうへと近づいてきた。そしてその男子が『どうも初めまして。僕は、杖月裕輔といいます。こっちは、昔からの友達の津沢瑞季。』みずきが、『よろしく！』と言った。

あいが『あつ、えつと…：このコがさつき会いたがつつたゆうら。あゆは…：今は来とらん。』ゆうすけが『おお…：このコが大道優羽菜ちゃんか！大道怜依那ちゃんと名字一緒なんやね！』女子3人が、ドン引きした。

ゆうらが『れなとゆらは双子やからね。顔似とらんから分らんかもね。』ゆうすけが『あつ！双子やつたんか！！ごめんね。気づか

んだ…。『れいなとゆうらが『ああ、ぜんぜんいいよ！！初対面の
人に一発で双子って分かってもらったことないんよ。おもしろいよ
』。』

などと喋っていると、授業の始まりのチャイムが鳴った。ゆうらは
3組やから、走って戻っていった。

そして帰り。

小学校のときのように、4人で帰った。家も近いし。4人は、これ
からも楽しくやっていけそうとか話していた。

みんな家に無事到着。

中学校生活

『これで、入学式を終わります。』新1年生が、吹奏楽部の演奏に合わせて退場していく。みんなは、自分のクラスに戻っていった。今日から私達は、中学生になった。小学校のころからも人数が多かったけど、中学校は5つの小学校が合わさっているから更に人数が多くなった。

幼稚園から仲が良かった親友とは、うまい具合にクラスが分かれた。1組に、れいなとあい。3組に、ゆうらとあゆ。この4人は、昔からの付き合い。れいなとゆうらは、双子の姉妹。家の敷地には、家とお城がある。そのお城の王様はれいなとゆうらの父、お姫様は母、としてお城を築き上げている。つまり、れいなとゆうらは社長令嬢だ。

4人は、付属小学校出身。5つの小学校の中で2番目に頭がいい学校だ。入学するときに、お受験して合格しないと入れない。4人は、家がみんな近かったから一緒に通いたいとゆうことでお受験したら、見事に合格した。

『ねえーゆらー！』突然、あゆがゆうらに話しかけてきた。

『さつき、れなとあいの教室行ったら…ゆらに会いたいわって言うてる男子おったよ！』ゆうらは、男子とか興味がないほうで特になにも考えずに会いに行ってみることにした。

『あいー！』ゆうらは、あいに会うほうが優先だった。『きーたーぞー！』すると、あいもあゆと同じことを言った。『ゆら、あの

眼鏡の男子どう思う？』いきなりの質問に、ゆうらは『ええ…：んまあ…いい人そうやけど…。なんで？』するとあいが、『なんか、あたしらのこと小学校のころから知つとるらしくて。ずつと探したらしい。』ゆうらが、『ええ…：なんか…：気をつけたほうがよくない？！探しとつたとか…。危ないカンジする。』そこに、れいなが入ってきた。『あつ、ゆらや！あの男子の話聞いた？』ゆうらは『ああ…まあ…：ちよつと危なそうに見える人やろ？』するとれいなが『それがね！！ぜんぜん危なくないん！！さつき話してみたら、すごいいい人やつたん！なんか…：共通点あるとか。』あいとゆうらが、『はあ！？！？意味分からんし！最近知り合つたばかりなのに、共通点なんかあるわけないやんか！！』れいなが、『それがね…：あるんよ。今、あゆおらんから言つけど…：うちら3人さ、1回大人に襲われたやんか？そのときに飲まされた液体みたいなやつ、あの男子も飲まされたつて。』あいが『えつっ！？まぢで！？あの男子の症状は、うちらと一緒になん？』れいなが『うちらは、貧血とかだけやけど…：あの男子はしばらく入院しとらんなんかつたぐらいに、やばかつたみたいよ。頭殴られて、意識もすぐ戻らんだみたいで。』ゆうらが『まぢかよ…：結構身近におるもんなんやね…：つてことは、あの男子も薬飲んどるん？』れいなが『そうそう。同じやつやわ。』ゆうらが、『そうかあ…。』と言って、チラッとその男子を見たときに目が合ってしまった。その男子は、仲がいいもう1人の男子と一緒に3人のほうへと近づいてきた。そしてその男子が『どうも初めまして。僕は、杖月裕輔といいます。こっちは、昔からの友達の津沢瑞季。』みずきが、『よろしく！』と言った。

あいが『あつ、えつと…：このコがさつき会いたがつつたゆうら。あゆは…：今は来とらん。』ゆうすけが『おお…：このコが大道優羽菜ちゃんか！大道怜依那ちゃんと名字一緒なんやね！』女子3人が、ドン引きした。

ゆうらが『れなとゆらは双子やからね。顔似とらんから分らんかもね。』ゆうすけが『あつ！双子やつたんか！！ごめんね。気づか

んだ……。『れいなとゆうらが『ああ〜ぜんぜんいいよ！！初対面の
人に一発で双子って分かってもらったことないんよ。おもしろいよ
〜。』

などと喋っている、授業の始まりのチャイムが鳴った。ゆうらは
3組やから、走って戻っていった。

そして帰り。

小学校のときのように、4人で帰った。家も近いし。4人は、これ
からも楽しくやっていけそうとか話していた。

みんな家に無事到着。『れなとゆら帰って来たあ〜。学校どうやつ
たん？』帰っていきなり話しかけてきたのは、あや。れいなとゆう
らの妹だ。れいなとゆうらは、7人姉妹。れいなとゆうらの2つ上
に、高校2年生の真奈美^{まなみ}、1つ下に小学6年生の愛弥乃^{あやの}、3つ下に
小学4年生の緋樺莉^{ひかり}、5つ下に小学2年生の実紗冬^{みさと}、1つ下に2歳
の紗愛弥^{こあや}といった大家族だ。

れいなとゆうらは、あやの質問に『楽しかったよ〜。』と答えた。

あの、ゆうすけと仲良くできるかは心配だ。あいから聞いたが、出
身は第一小学校らしい。5つの小学校の中で1番頭がいい学校。第
一小学校も、入学するときにお受験して合格しないと入れない。付
属小学校よりもレベルが高い。第一小学校の卒業生は、受験して遠
くにある頭がいい学校に行く人も多いみたいだ。でも、ゆうすけと
みずきは近いほうに来たらしい。

とにかく、明日からも仲良くしていこう。

『ねえあゆ〜。中学校どうやった〜？』そのころあゆの家でも、同
じ会話が続けていた。あゆに話しかけたのは、妹のあみちゃん。れ
いなとゆうらの妹のひかりと同じ、4年生だ。付属小学校に通って
いる。

あゆはあみちゃんの質問に、『そーやなー。ゆらと同じクラスになったから楽しいよ。』あみちゃんが、『ああーひかりちゃんのお姉ちゃんかー！いいなあー。あみ、ひかりちゃんと同じクラスになれんよお。出席番号も遠いしな。』あゆ・あみの名字は、吉川。れいな・ゆうらは大道で、『お』と『よ』やからとおい。あゆは、『ええー同じクラスなったことないん！？確かに出席番号は遠いね。』と言った。こちらでも仲良く話している様子。

そしてこの家は。

『あい。中学校どうやった？』聞いてきたのは姉のみかと妹のはる姉のみかさんは大学生で1人暮らしをしているが、春休みということで遊びに来ている。妹のはるちゃんは、れいな・ゆうらの妹のみさとと同じ2年生だ。みかさんとはるちゃんの質問にあいは『ああー楽しいよ。』ちよつとそっけない返事をした。姉は、気を使ってもう何も言わないでくれたが、妹のはるちゃんも喋ってほしかったのか、『ねえねえー！いろんなこと教えてよー！』と言った。あいは、『だから楽しかったって言つとるやんー！ちよつと静かにしてよ！』とケンカになってしまった。あいは、機嫌がいいと優しいが、機嫌が悪いとケンカになる。妹にだけだが。

そして、みんなの1日が無事終わった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7823y/>

私の日常

2011年11月23日13時50分発行